



1994.11.7 大林宿本陣 山下正子

編集後記

『燎原』総目次(九)

前代表天野和夫氏の思い出

岩井忠熊

地域に根ざす教育をめざして

吉岡時夫

『偉大な山本宣治さんの顕彰
のために』 小田切明徳

「偉大な山本宣治さんの顕彰のために」

一一九九年三月五日 山宣祭で

小田切明徳

「偉大な山本宣治さんの顯彰のために」というテーマでこれから墓前祭の在り方について、少し口はばつたい問題提起をさせていただきます。

「山本宣治さんは、少し変わつ
偉人です。」これは同志社神学

振り返ってみますと、西口克巳さんの小説『山宣』で、戦前のゴルゴダの丘のシーンに描かれていた山宣像や、映画『武器なき斗い』が作られた時期六〇年安保闘争以後の民主運動の高揚の時期の、強い山宣像などが多いのですが、山宣のとらえ方は様々です。

宣さんを顕彰していく場合、多面的にとらえる事が大事ではないかと思います。例えば、「山宣ひとり孤墨を守る…」という有名な碑文があります。私はなかなか文学的な表現でいいのではないかと思っているのですが、“孤墨ではなくて赤旗を守るんだ”と言う人もいます。宮岡さんという方からは、“山宣の精神をもつとしつかり受けとめなさい”と何度もお叱りを受けました。でも私は、いろいろな山宣像を持てばいいのではないかと思っています。

すつと墓前祭に参加してきて思うのですが、墓前祭がややもする
と時々の政治課題が色濃く反映し、先鋭化した政治集会的なもの
になりがちではないかと思うことがあります。山宣に対する共産党
や民主勢力の側の思い入れが強すぎて、山宣を独占しているのでは
ないかとの印象を受けることがあります。もちろん私は政治的には
共産党が大好きですが、山宣のところが狭くなつてきているので
はないかということです。そうではなくて郷土の偉人をもつともつ
と多くの人々に気軽に愛してもらいたいのです。

つたらしいのではないか、そのために発想の転換をした方がいいのではないかというのが私の思いです。

以前に私はライニツシュさんと
いうアメリカの性科学者でキンジ
ー研究所の三代目の所長さんを、
山宣のお墓や資料室に案内しまし
た。彼女はその時、自分には三人
の父親がいると言うんです、実父
とキンジー博士そして山本宣治の
三人が父親だと。なぜかというと
山宣はキンジー・レポートという
有名な性行動の調査報告が出され
る二十五年も前にすでにレポート
を発表しているんです。その山宣
の業績を彼女は国際的に評価して
いるのです。また、私は一九九八
年中国で開催された中日性健康教
育学術交流の第二回会議（二〇〇〇
〇年正月の第三回にも参加）に参
加しています。中国では一人っ子
政策の下で性の問題が大変重要な
ことです。その会議で私は山本宣治
さんのことについても発言し、山
宣さんが迫りくる侵略戦争の危機
の下で対支非干渉同盟の委員長と
して鬪ったという話をすると、中
国人の人達は非常に好意的に山宣を
とらえてくれています。

つまり、まもなく迎えようとする二十一世紀の国際化の時代にふさわしい山宣像、郷土の生んだ偉人をたたえるという点でもっと広い視野で考えた方がよいのではないかと思います。政治と性学のパイオニアとしての山宣、反戦平和のために闘ったヒューマニスト、アクチビスト山宣など…。しかも二十一世紀の遅くない時期に国民が主人公になる世の中を作っていくという展望が語られている時には、なおさらもっと広い分野で山宣像をとらえる必要があるのではないかと思います。例えば、私がかかわっている性教育の分野では、今も「純潔路線」（主として文部省や各地の教育委員の考え方で、女性のみに純潔を求める男尊女卑の路線）というのがありますが、その推進の立場で頑張っている人の中にも山本宣治さんは偉人だという人がいます。小・中・高校の教育現場からすると「純潔路線」の性教育なんか糞食らえなんだけれども、山宣さんの時代と同様まだまだ性に対する偏見が強い中で、文部省よりの「純潔路線」の性教育を推進している人々も苦労しており、しかもその中にも山

宣を評価する人がいるということを考えると、私たちの側の接し方をもっと柔軟にしていく必要があるのではないかと思っています。なぜそのように思うのかを山宣の生涯とりわけ青年期までの生き立ちの面から述べてみたいと思います。山宣は残念ながら短命に終わったわけですが、豊かな青春期を満喫し成長しました。そして、思想的、政治的、文化的、社会的に自立したヒューマニストでありアクチビスト・活動家でした。

山宣の青年期をみると挫折や失敗の連続でした。体を悪くして神戸中学を中退、東京興農園や大隈邸園芸見習いの挫折、園芸見習いに行つたカナダでは、はじめの二年間はその点では失敗と…。今で言う「落ちこぼれ」でした。しかし、父親の亀松さんの器の大きさにも救われ、ゆったりとマイペースで歩みました。カナダでの五年間は山宣にとって非常に貴重な時期でした。失敗はするのですがノース・バンクーバーの原生林やフレザーリー河の肥沃な三角州での開墾など大自然の中での夢を持つとか、鮭取り漁夫や缶詰工場をはじめ様々な労働を体験して、

宣を評価する人がいるということを考えると、私たちの側の接し方をもっと柔軟にしていく必要があるのではないかと思っています。なぜそのように思うのかを山宣の生涯とりわけ青年期までの生き立ちの面から述べてみたいと思います。山宣は残念ながら短命に終わったわけですが、豊かな青春期を満喫し成長しました。そして、思想的、政治的、文化的、社会的に自立したヒューマニストでありアクチビスト・活動家でした。

山宣が自らの進路を決めるうえで悩みに悩んだ、自立への貴重な時期でした。最後の二年間で、ストラスコナ小学校とブリタニア・ハイスクールで徹底して語学を学んだことが、後に山宣が一九二〇年代の西洋の性科学とか産児調節運動とかの最先端の科学を学び、性教育や性学を身に付ける武器になりました。山本宣治さんは帰国後は、徹底的に勉強してやろうということことで、同志社普通学校、三高、東大へ進みます。

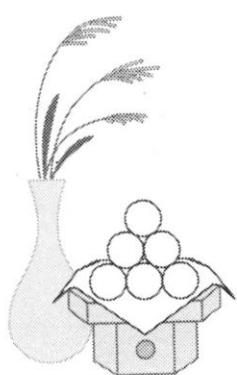
山宣は殺される直前、二月の予算委員会で三・一五事件での特高警察による残虐な拷問について徹底して追及していますが、このとき山宣は「もしかしたら殺される

たいへん回り道をするのですが労働とは何か、自然とは何か、人間とは何かなど多くのことを学びます。と同時に、アジア人排日運動やキリスト教会のゴタゴタに巻き込まれる中でキリスト教を相対化してみるようになりました。加藤秋真牧師と出会い科学や社会主義を学び、神学や信仰について自由に考えることを学びます。こうして、語学や西洋の個人主義・人権意識を学習するなど、この五年間は山宣が自らの進路を決めるうえで悩みに悩んだ、自立への貴重な時期でした。最後の二年間で、ストラスコナ小学校とブリタニア・ハイスクールで徹底して語学を学んだことが、後に山宣が一九二〇年代の西洋の性科学とか産児調節運動とかの最先端の科学を学び、性教育や性学を身に付ける武器になりました。山本宣治さんは帰国後は、徹底的に勉強してやろうとすることことで、同志社普通学校、三高、東大へ進みます。

山宣は殺される直前、二月の予算委員会で三・一五事件での特高警察による残虐な拷問について徹底して追及していますが、このとき山宣は「もしかしたら殺される」とかもしれない」と覚悟を決めて行動していたのではないかと思いません。中には赤旗が立つていても、参加を躊躇する人もいるのです。そしてその覚悟というのはすと同時に、アジア人排日運動で青春時代に培われていたのです。山本宣治さんの人生、社会活動は限られた時代だったのですが本当に凄い活動をしたものです。ですからこの人を見る場合、最後の政治活動の二年間だけでも見るのではなく、トータルに見る必要があると思います。同時に、顕彰していく場合でも、私たちの側の思想など様々な垣根を設けるのではなく、本当に偉大な人を顕彰しようと、誰もが気軽に集えるようになる必要があります。身びいきから山宣を引き回してはいないかと感じています。山宣は性教育で最先端に立て活動してきたので常に「自分の殻を破れ」「少数でもいい、質の高い性教育の理論を述べ、それを皆が納得すればいい」「お説教は糞食らえ」などと言っています。つまり山宣についての事実を淡々と語り、評価してもらえばいい。したがって、いま赤旗を立てて決意の場になつていてる墓前祭のありかたも、それはそれでいいのかも知れませんが、この際もつともつ

と考えてもいいのではないかと思います。中には赤旗が立つていても、参加を躊躇する人もいるのです。そしてその覚悟というのではなく、阿波の墓前祭でやるとかも考えてもいいのではないかと思いません。これはあくまでも私の問題提起です。皆さんで大いに議論していただけたらと思います。

(おだぎり あきのり
同志社山宣会事務局長)



地域に根ざす教育をめざして

吉岡 時夫

「こみあげる怒り」

三十六年五月十六日から、丹後ちりめんを織つている網野織物労働者一〇〇〇名が三十三日のストライキで賃上げを闘つた。奥丹の教師たちは、全面的に闘いを支援し、物心両面で援助した。闘いのなかで、「織物労働者と教育を語る会」が組織され、労働者の率直な声として、「学校でもっと労基法を教えてほしい」「学校で先生は歴史を正しく教えてほしい」「自分だけよい子になる生徒でなしに、みんなと話し合い、生活を守ることも教えてほしい」など要望された。ある職業指導の教師は「私の十年の指導は、“苦しくてもしんばうしなさい”的の一語につきる。しかし、教え子が一時間二十円の低賃金で働かされ、団結して闘っているとき、ニセ電報で故郷へよびもどした親方のあくどさ

を見て、わたしの指導のまちがいを知り、工場主にマイクで抗議しました」と述べた。この闘いは全丹後、全京都にひろがり、六月十三日「政暴法粉碎・網野織物闘争支援総決起集会」には、京都府奥丹各地の村や町から、教師・労働者・農民五〇〇〇名が網野小学校に結集し、ハタ音の止まつた町内に赤ハタがはためき、白エプロンにハチ巻姿の女子労働者を先頭にデモの隊列がつづき、歌声は、田・畑にとどろいた。闘いは多くの教訓を残し、七月三日勝利のうちに終わった。八月には、周枳織物労働者がこれもまた二十日間のストライキで闘つた。闘いのなかで、教師と労働者の統一の思想はいつそう深まった。

そして、その年第十一丹後教研（私は教文部長、下戸明夫氏副部長）には、たくさんの教え子たち、ちりめん女子労働者が参加した。そして奥丹の教師、父母たちに、シュプレヒコールで次のように訴えかけ、教育という仕事のきびしさと、そのあり方について問題をなげかけ、深い感動を呼び起した。

「こみ上げる怒りを」

一 怒りこみあげて

ふるえるこぶし

織姫のやさしき胸も

いつまでもだまされはせじ

見よ細き腕も組めば

くろがねの力とはなる、

力とはなる。

二 くちびるかみしめて

結ぶ鉢巻

われらはみな断じて退かず

ささやかな生きる権利を

ふみにじる機業主らの

石頭打ちくだくまで、

打ちくだくまで。

三 旗は紅にもえはためく

仲間らの闘いの唄

丹後路にとどろきわたる

われら今、働くものの

新しい歴史を創る、

歴史を創る。

街に工場に朝がくる
一 女子ちりめん労働者の訴え

(一) 限りない憤り

今から二昔前、あのいまわしい世界第二次大戦の最中、人民の生活のいちばん苦しい時に、わたしたちは生まれました。あれから早くも二十年。幼い頭に戦争の恐怖だけしかうえつけられなかつたわたしたちも今は若者になりました。

戦争というにくんでも、にくみきれないアクマが残していったツメあとから、人間と自然は今ようやくいえようとしているそのやさ

き、また世界のあちこちで、戦争

をたくらんでいるものがあります。

わたしたちの胸におぼろげだつた昔の記憶が、まるで昨日のことのように、強烈によみがえつてきます。そしてあの時、戦争を起こしたロクデナシのおとなと、戦争をくいとめようとしたなかつた意気地なしのおとな、そして今日、世

界で何が起こつていようと、知らん顔しているおとなたちに限りない憤りがわいてきます。

(二) 若者になつたけれど

わたしたちは若者となつたけれど、恥知らずでするくて、うそつきのおとなにはなりたくない。知つても知らん顔をしたり、となり近所の人のご機嫌をうかがつて心にもないことを言つてみたり、そのくせ、若者のすることにはなんでもケチをつけたがり、しかることだけしか、ようしないおとな。となり近所のことなら知らなくてもいいことまで知ろうとするくせに、わたしたちの生きている世のなかや、社会のどうしても知らなければならぬいせつなことには目をつぶつて知ろうとしないおとな。わたしたちは、そういうおとなになりたくない。

(三) けど今は違います

わたしたちりめん女工は、家が貧乏で高校へ進学できませんでした。そしてちりめん女工は、家が貧乏で高校へ進学できませんでした。そしてちりめん女工は、家が貧乏で高校へ進学できませんでした。そしてちりめん女工は、家が貧乏で高校へ進学できませんでした。ひびと、しもやけで、マツカになつた手でハタを織るとき、わたし

たちは貧乏へのかぎりないにくしみと、高校へやつてくれなかつた親たちを、うらみがましく思いました。

けど今は違います。高校へいけなかつたことや、やつてくれなかつた親たちをうらんではいません。なぜならそれは、こんなにもたくさんの仲間たちといつしょだからです。

わたしたちは、こんなにすばらしいたくさんの仲間たちと、いつしょになつて、わたしたちが高校へ行けなかつた原因をたしかめ、貧乏をなくそうと思います。

お父さん、お母さん
先生、そして多くの
おとなたち！

わたしたちは、こんなに大きくなりました。わたしたちはこんなに大きな若者となりました。

わたしたちは、こんなにたくさん仲間たちといつしょになつて、わたしたちの世界から貧乏と戦争をなくしようとしているのです。

すばらしいことじやありませんか。この世の中から貧乏をなくしそうなんて……。みんな幸せになろう。わたし

とりだけのしあわせではない。みんなのしあわせ、みんながしあわせになろう。

(四) なぜ・なぜ・なぜ？

どうしてなのだろう、わたしたちはこんなに大きくなつたのに、まだわかつてくれないおとなたちがいっぱいいる。

たしかに、組合の役や活動などをしていると、お針や、お花、お茶などのならないことはできない。けれど、それよりも先にやらなければならぬことがある。それがわかつてくれない。「お前ひとりがきばつてみたところで、この大きな社会がうごかせるか」と親たちも、おとなたちも言う。そして朝早くから、晚おそくまで、七カセカと働きづめで、なんのうるおいや楽しみの時間ももたず、綿のようになつた体を休めるのは、夜ねるときだけという毎日をすごして、働いても働いても楽にならないことをグチリながら、ちつとも、その原因をつきとめ解決しようとしていないおとなたち。

お父さん、お母さん、先生、そしてたくさんのおとなたち、聞いてください。

わたしたち若者は、ちつぽけな自分ひとりの幸せなど求めていません。わたしたちは、もっと大きな、もっとすばらしい幸せを求めています。この世のなかに生きていく人たち、全人類の共通の幸せ、平和を愛し求めています。

平和なくして、わたしたちの幸せがあろうはずがないことは、あなたたちがよく知つてゐるはずです。世のなかの多くの親たちは、

どうと自分たちの生活をよくしようとしないのか。自分たちの要求を行動に訴えようとしないのか。なぜもつと勇敢に正しいことを行動に訴えようとしないのか。

(五) たつた一つ・一つだけ

自分たちがおかした大きな犯ちを恥じて、ものを言わないのか。もしそうだとしたら、とんでもないことだ。今こそ叫ぶときだ。今こそあなたたちおとなが体験したことからものを言うべきだ。言うべき事実と歴史をあなたたちは知つている。

なぜ・なぜ・なぜ！

かわいい子どもたちのために、いろいろと高価なプレゼントをし、子どもの幸せを願います。けれど、ほんとうに、子どもたちの幸せを祈るなら、たつた一つ、たつた一つだけ、全部の子どもたちに、「平和の保障」をプレゼントするなら、それに勝るものはありません。このことはできないことではありません。親が子どもを愛するかぎり……。

(六) 胸をはってさけびます

わたしたちはこんなに大きな若者となりました。わたしたちに「平和」を教えたのはあなたたちです。わたしたちは、胸をはって正々堂々とさけびます。平和を！わたしたちは大きくなつて、いろいろのことがわかつてきました。もうだまされません。わたしたちは、幸せのために団結し、闘うことを知りました。わたしたちも闘います。生活向上のために、幸せのために。平和を守るため新安保に反対し、政暴法を粉砕し、わたしたちを戦争の不幸につきおとすもろもろのものに限りないにくしみと怒りをもつて力の限り闘います。

おとうさん、おかあさん、そして、おおくのおとなのみなさん。先生！いつしょに力を合わせて闘いましょう。

エプロン姿に鉢巻の可愛い教え子たち、ちりめん織物女子労働者のこの胸をえぐるような訴えに、おとなたち・教師たちは、ほほを伝つて流れる涙をふこうともしないで聞き入り、訴え終わつたとき、教研集会の会場からは、止むことのない共感の拍手が長く続いた。

教育運動が人間変革・人間づくりの運動なら、教師と父母・労働者の統一の力なしには、その成功は考えられない。結びつきのポイントは何か、それは子ども・親たち・教師・労働者・農民が、現にある資本主義体制のなかで、形はさまざまに違うとしても、「差別され、人間疎外を受けて苦しんでいる」という共通の認識に立つことである。ここに国民教育創造の根柢があり、発展の可能性を裏づける思想性がある。

奥丹の教育運動はこうして、勤評・学テ・安保・政暴法・地域の諸闘争と結合し、くみつくせぬ多くの教訓を残しながら発展していく

く。なおこの記録は個人の記録でなく、奥丹の教師と父母・労働者が体で闘ってきた消すことのできぬ共同の記録の一部分であり、更に豊かに書き加え、改められるものであることを特に記し一応筆をおく。

一一九六四・一〇・二五、原子力潜水艦寄港阻止神戸港大集会に参加した夜——(季刊『教育運動』—奥丹の教育運動—から)
(よしおか・ときお・元教員
弥栄町在住)

前代表天野和夫氏の思い出

岩井 忠熊

天野氏が亡くなつて五ヶ月が過ぎた。同君は筆者より一年はやく生まれている。見るからに頑丈そな身体つき、本人はスポーツ万能と語っていた。同君が立命館の総長 筆者が補佐役の教学担当常務理事(副学長)のころ、毎年の恒例で大学の役員と女子学生会のソフトボーラー試合があつた。天野君は長打をカツ飛ばし、筆者はあえない三振という始末。この体力

たので、学部こそ法・文とちがつたが、すぐに親密な関係になつた。兩人とも教職員組合青年部で活躍したこと機縁だったように記憶する。

「偲ぶ会」で配られた資料によると、天野君の著作は教科書類を除いてすべて惠贈を受け、今も書架にある。私も著作の全部を贈った。彼はからならず目を通して感想を書信にする人である。正直にいえば密度のこい法哲学は私には苦手なのだが、議論のすすめ方の緻密なにはいつも啓發され、かえりみて自分の文章のあらっぽさがはずかしかつた。

総長と副学長という関係は、本当はなかなかむずかしい問題が生じがちなのである。しかし天野氏と筆者のコンビはうまくいったと思つてゐる。総長は代表者だからどうしても外向きの仕事が主となり、東京出張も多かった。だから学内の問題はどうしても副学長が処理しなければならない。しかしそれに関するばう大な書類は、最後にみな総長の手もとに集まる。実際はすでに終つてしまつた案件も多いのだが、天野君は綿密に目を通し、一切を頭に入れていた。一見すると特に問題がない限り、私はまかせつきりに見えるが、彼は全部を承知していた。そしてほとんど何もいわなかつた。これはなかなかみの人にできないことなのである。

天野君は法学部にあつて順調な経歴をたどり、はやばやと学部長や大学評議員をつとめ、学術会議等での活躍も早かつた。そのため、「大学紛争」時の教学担当常務理事という不運な役職で苦労する事になった。私は多年にわたり文部省で孤立無援の悪戦苦闘をつづけ、「紛争」では一番に風当たりの強い場で苦労した。ある意味で

はこの時の共通の体験が二人を結びつけていたといえる。しぶとくそして賢く生きぬかなければならぬが、けつして手抜きをしないなど、私のえた教訓は大きかつた。もうひとつの体験の共通といえばやはり一九四三年「学徒出陣」ということになるだろう。それが

ある意味では天野氏の憲法運動にそそいだ献身の原点をなしている。そしてその延長上に「京都の民主運動史を語る会」と「燎原」があつた。天野君が細野武男さん

の後に会の代表をつぎ、さらにその仕事を筆者にゆだねたのには、深いえにしがあつたと思わずおれない。

ここ何年か天野氏のリューマチ症状の状態は、正直いって、見るものもつらかつた。近所に住みながらついつい見舞いを怠つたのは、本当に申し訳ないことだつた。実は正視するのがこわかつたのである。しかし「燎原」が届くことで、彼には私たちとの連帯を感じとつてもらえる、と信じていたのも事実である。これからも「燎原」の火をともしていこう。

(いわい ただくま

立命館大学名誉教授)

『燎原』総目次（九）

第一一九号—第一二二八号

第一一九号（P.8）

九八・一一・一

第一一二三号（P.8）

九九・五・一

いちりんの花—福田弘子八十年の軌跡より—、第三中隊第一小隊（志摩肇）、闘争前篇（一〇）（田中豊蔵）

（谷美奈子）、レイテ島の記録（二二）（伊藤和市）、「闘争」後編（二二）（田中豊蔵）

京都子どもを守る会のあれこれ—四十五年のあゆみから—（関

（完）（田中豊蔵）、田中豊蔵氏の連載を終つて（T・I）、断想（源照子）、最後の突撃（堀江保次）、紹介 湯浅晃「戦後京都労働運動の歴史」（岩井忠熊）、総会報告

第一一二一號（P.8）

九九・一・一

第一一二四号（P.8）

九九・七・一

京都学習協議会の誕生（いげたりょうじ）、「京都の女性のあゆみ—史料と年表でつづる国際婦人年から二十年」を出版し（河音久子）、文芸編 短歌（黒住嘉輝）、「闘争」後編（田中豊蔵）、新春をむかえて

（源照子）、最後の突撃（堀江保次）、紹介 湯浅晃「戦後京都労働運動の歴史」（岩井忠熊）、総会報告

第一一二二号（P.8）

九九・三・一

第一一二四号（P.8）

九九・九・一

真理と自由を教えて虐殺された倉岡愛穂先生（湯浅貞夫）、「日の丸・君が代」の京都市内小・

